

令和4年度
高齢者実態調査報告書
《本人調査》

大 阪 市

一 目 次

Ⅰ 調査概要	Ⅰ
(1) 調査目的	Ⅰ
(2) 調査設計	Ⅰ
(3) 調査項目	Ⅰ
(4) 回収状況	2
(5) 報告書の見方	2
2 調査結果	3
(1) 調査回答者の基本属性	3
問1 記入者	3
問2 (1) 本人の性別	4
問2 (2) 本人の年齢	6
問2 (3) 居住区	8
問2 (4) 居住年数	10
(2) 世帯・住まいの状況	12
問3 世帯状況	12
問3-1 昼間の状況	15
(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	17
問4 要介護・要支援認定状況	17
問5 介護が必要になった場合の暮らし方	20
問6 日常生活への不安の有無	24
問6-1 日常生活への不安	26
問7 在宅生活継続のための支援	30
問8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響	34
問9 新型コロナウイルス感染症に感染した経験	37
問10 情報通信機器の所有状況と利用状況	38
問11 情報通信機器の利用目的	46
問11-1 情報通信機器を利用しない理由	49
問12 医療の相談先	52
問13 希望すれば在宅医療を受けられることの認知度	53
問14 在宅医療の利用状況	55
問15 人生会議（ACP）の認知度	57
問16 人生の最終段階に過ごしたい場所	59
問17 人生の最終段階についての話し合いの有無	63
問17-1 人生の最終段階についての話し合った相手	65
問17-2 話し合いで決めた内容の共有の有無	68

(4) 地域生活支援	69
問 18 認知症の認知度	69
問 19 認知症の人の支援	71
問 20 孤立死に対する意識	74
問 20-1 孤立死を身近に感じる理由	77
問 21 地域での見守り活動の認知度と必要性	78
問 22 災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	88
問 22-1 災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	91
問 23 災害時の心配事	93
問 24 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況	98
問 24-1 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）を知った経緯	102
問 24-2 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用目的と満足度	105
問 25 高齢者虐待の相談先の認知度	107
問 26 消費者被害の経験有無	109
問 27 老人福祉センターの利用状況	111
問 27-1 老人福祉センターを利用していない理由	114
(5) 将来の介護や援護に対する考え	115
問 28 特養入所意向	115
問 29 特養の整備と介護保険料	117
(6) 高齢者施策全般	120
問 30 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	120
問 31 自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向	121
問 32 重点を置いてほしい高齢者施策	123
付問 32 特に重点を置いてほしい高齢者施策	130
(7) 高齢者施策に関する意見・要望等	131

3 個別テーマに関する状況..... 133

(1) ひとり暮らし高齢者の暮らしに関する意識と実態	133
①回答者の基本属性	133
問 2 (1) 本人の性別	133
問 2 (2) 本人の年齢	133
問 2 (4) 居住年数	134
②健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況	134
問 4 要介護・要支援認定状況	134
問 5 介護が必要になった場合の暮らし方	135
問 6 日常生活への不安の有無	135
問 6-1 日常生活への不安内容	136
問 7 在宅生活継続のための支援	137
問 8 新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響	138

問 10	情報通信機器の所有状況と利用状況	139
問 11	情報通信機器の利用目的	140
問 11-1	情報通信機器を利用しない理由	141
問 12	医療の相談先	142
問 16	人生の最終段階に過ごしたい場所.....	143
③地域生活支援		144
問 20	孤立死に対する意識	144
問 20-1	孤立死を身近に感じる理由	144
問 21	地域での見守り活動の認知度と必要性	145
問 22	災害時・緊急時にひとりでの避難の可否	147
問 22-1	災害時・緊急時に手助けを頼める人の有無	147
問 23	災害時の心配事	148
問 24	地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用状況	149
問 26	消費者被害の経験有無	149
問 27	老人福祉センターの利用状況.....	149
(2)	新型コロナウイルス感染症拡大による高齢者の暮らしへの影響	150
①世帯の状況		150
問 3-1	昼間の状況	150
②健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況		150
問 4	要介護・要支援認定状況.....	150
問 6	日常生活への不安の有無.....	151
問 6-1	不安内容.....	151
問 11	情報通信機器の利用目的	152
問 12	医療の相談先	153
問 20	孤立死に対する意識	154
問 20-1	孤立死を身近に感じる理由	154
問 21	地域での見守り活動で必要な取組.....	155
問 27	老人福祉センターの利用状況.....	156
問 28	特養入所意向	156
問 31	自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向	156
問 32	重点を置いてほしい高齢者施策.....	157

4 調査結果からみえてきた現状と課題..... 158

- (1) 回答者の世帯の特性 158
- (2) 高齢者の暮らしぶりや考え方にみる課題 158
- (3) 医療と介護連携に関する高齢者の考え方にみる課題..... 159
- (4) 安心・安全に関する高齢者の考え方にみる課題 159
- (5) 市が提供するサービスや施設利用にみる課題 160
- (6) ひとり暮らし高齢者の暮らしに関する意識と実態にみる課題 161
- (7) 新型コロナウイルス感染拡大による高齢者の暮らしへの影響にみる課題 162

資料編 163

1 調査概要

(1) 調査目的

大阪市内に居住する65歳以上の高齢者を対象に、世帯の状況、日常生活の状況、将来の介護に対する考え、地域生活の状況、高齢者向けサービスの利用状況と利用意向などを把握し、大阪市内における今後の高齢者施策及び介護保険事業制度の運営に資する基礎資料を得ることを目的に実施した。

(2) 調査設計

- ① 調査地域：大阪市内全域
- ② 調査対象：大阪市内に居住する満65歳以上の高齢者から無作為に抽出した20,400人
- ③ 調査方法：郵送配布、郵送回収
- ④ 調査期間：令和4年9月9日（金）から令和4年9月30日（金）

(3) 調査項目

① 調査回答者の基本属性

記入者、性別、年齢、居住区、居住年数

② 世帯・住まいの状況

世帯状況、昼間の状況

③ 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

要介護・要支援認定状況、介護が必要になった場合の暮らし方、日常生活への不安、在宅生活継続のための支援、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による生活への影響、新型コロナウイルス感染症に感染した経験、情報通信機器の所有状況と利用状況、医療の相談先、希望すれば在宅医療を受けられることの認知度、在宅医療の利用状況、人生会議（ACP）の認知度、人生の最終段階に過ごしたい場所、人生の最終段階についての話し合い

④ 地域生活支援

認知症に関すること、孤立死に対する意識、地域での見守り活動の認知度と必要性、災害時・緊急時の支援、地域包括支援センター・ランチの利用状況・満足度、高齢者虐待の相談先の認知度、消費者被害の経験有無、老人福祉センターの利用状況

⑤ 将来の介護や援護に対する考え

特養入所意向、特養整備と介護保険料

⑥ 高齢者施策全般

高齢者向け施設・事業の利用状況・意向、自立支援・重度化防止に役立つケアマネジメントの実施意向、重点を置いてほしい高齢者施策

⑦ 高齢者施策に関する意見・要望等

(4) 回収状況

調査対象者 (a)	回収数 (b)	集計対象外数 (c)	有効回答数 (d)=(b)-(c)	有効回答率 (e)=(d)/(a)
20,400	13,140	346	12,794	62.7%

※集計対象外数の内訳（調査票の返送があったが、下記の理由により集計対象から外したもの）

病院に入 院中	特別養護老人 ホームや介護 老人保健施設 等の施設に入 所中	本人の意 思が確認 できない	転居	死亡	その他	白票	計
84	170	44	7	22	4	15	346

【介護保険料段階】有効回答数を全体とした各段階の人数（上段）と割合（下段）

第1 段階	第2 段階	第3 段階	第4 段階	第5 段階	第6 段階	第7 段階	第8 段階	第9 段階	第10 段階
891 7.0%	2,161 16.9%	1,400 10.9%	1,313 10.3%	1,100 8.6%	1,206 9.4%	1,641 12.8%	1,331 10.4%	725 5.7%	336 2.6%

第11 段階	第12 段階	第13 段階	第14 段階	第15 段階	不明
185 1.4%	100 0.8%	63 0.5%	123 1.0%	201 1.6%	18 0.1%

(5) 報告書の見方

- ① 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示し、小数点第2位を四捨五入した。（比率の合計が100.0%にならない場合がある。）
- ② 図表上の「MA%」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の、また、「LA%」という表記は制限つき複数回答（Limited Answer の略）の意味である。
- ③ コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合がある。
- ④ 報告書記載の「前回調査」とは、令和元年度実施の高齢者実態調査の結果を示している。